

韓国が脱原発を宣言

「新規建設は白紙」 文在寅新大統領が宣言！

韓国の文在寅大統領は6月19日、原子力発電を重視した従来の政策を転換し脱原発を進めると宣言、「新規の原発建設計画は全面的に白紙化する」と述べた。設計寿命を超えた原子炉は運転しないとし、東京電力福島第1原発事故後に行った地震対策を再検討し安全基準を大幅に強化することも表明した。

6月18日夜に運転を終了した釜山（プサン）郊外の古里（コリ）原発1号機前で演説した。文氏は安全な社会を造るとして脱原発を大統領選の公約に掲げていた。この姿勢を再確認し、エネルギー政策を大転換させる姿勢を鮮明にした。

韓国では古里1号機も含め25基の原発があり、総発電量の30%を原発が担ってきた。文氏は選挙中、2030年までに原発のシェアを18%まで下げると表明していた。

文氏は演説で、原発重視は発展途上国の時期に選択した政策だったが、国民の生命を最重視し、政策を変更する時が来たと強調。

昨年9月に南東部、慶州で起きた地震で建物などに被害が出たことを挙げ「韓国はもはや地震安全地帯ではなく、特に地震による原発事故は致命的だ」と述べた。

その上で、福島第1原発事故から漏えいした放射性物質による死者やがん患者の数は「把握も不可能な状況だ」とし、被害の大きさを強調。福島の事故が「原発が安全でも、安くもないことを明白に示した」とも述べた。

2017年6月20日愛媛新聞

参考資料

韓国の原子力発電所（●）



脱原発を巡る世界の動き

ベルギー 2025年までの停止を法制化

ドイツ 22年末までの停止を法制化

新規の原発建設計画
白紙化を表明 **韓国**

25年までに
事実上全て停止
する法案可決 **台湾**

スイス
国民投票で
脱原発政策
を容認

ベトナム
初の原発建設計画
を白紙撤回

日本は世界の流れに逆行している！

上図に見られるように、アジアの中で台湾、ベトナムがすでに韓国に先行して脱原発へと舵を切っています。ヨーロッパでも同様です。ドイツをはじめとする脱原発の動きはかなり報道されてきましたが、あのフランスもマクロン新大統領のもと17基の原発閉鎖を表明しました。

中国はすでに世界最大の再生エネルギー生産国です。福島の惨事を経験した日本が一番世界の流れを読めていないのです。

韓国は人口密集地の近くに多くの原発があるのが特徴で、古里原発は半径30km圏内に300万人以上が暮らす。19基は日本海側に集中し、過酷事故が起これば、偏西風により日本にも大きな影響がでる懸念があります。

韓国で原発事故が起こった場合 距離に注目



伊方原発をとめる大分裁判の会は多くの弁護士が裁判を担っています。今回から弁護士の活動を知っていただくという趣旨で「弁護団紹介コーナー」を設けました。第1回目は弁護団事務局の佐藤朗弁護士です。

弁護団紹介コーナー 佐藤 朗 弁護士

はじめまして。弁護士の佐藤朗（さとうあきら）です。このたび、弁護団のトップバッターとして新企画「弁護団紹介コーナー」に寄稿させていただきますことになりました。

まさか自分が原発裁判に関わるとは…

私は今年でまだ2年目の新米弁護士で、ふだんは民事・刑事を問わず、様々な事件をやらせてもらっていますが、まさか自分が原発裁判に関わるとは・・・2年前の自分が知ったら、どんな顔をするでしょう。

横浜出身。甘めの味噌、醤油が好き

出身は横浜で、大分に来て3年目です。弁護士になる前の司法修習を大分で過ごし、居心地の良さにそのまま大分に居ついてしまいました。最初は戸惑っていた甘めの味噌と醤油も今ではすっかりお気に入りです。

修習中は、当弁護団の岡村正淳弁護士、根岸秀世弁護士が所属する大分共同法律事務所にお世話になり（根岸弁護士は私の指導担当です）、また徳田靖之弁護士からは弁護士としての生き方を考えるうえで大きな影響を受けました。

そう考えると、大分に来ることが決まった時点で私が原発裁判に関わるのも必然だったのかもしれない。大分に来たのは私の意思ではないのですから、人生とは不思議なものです。

事務局を担当しています

弁護団の中での私のポジションは事務局ですので、今後、これまで以上に弁護団と原告団・応援団を繋げていけたらいいなと思っています。弁護団にリクエストなどございましたら、裁判後の報告集会で質問をする方にマイクを手渡すべく、きよろきよろしているのが私ですので、お気軽に声をおかけください。

勇気を出して声をあげた時点で負けはないと思う

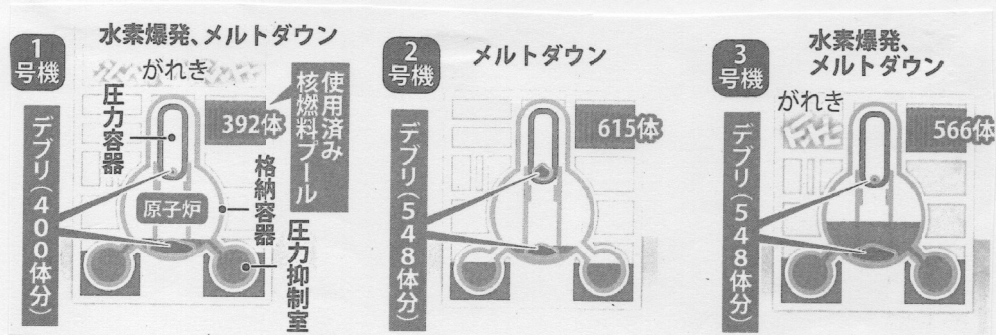
この裁判はこれからどうなるのか、いまの私には想像もつきません。長い闘いになるのかもしれないし、そうでもないのかもしれない。結果はどうなるか分かりませんが、勇気を出して声をあげた時点で負けはないと夢見がちな私は思うのです。April showers bring May flowers -大きな花が、向日葵なんか咲くといいですね。



福島原発事故6年半

新聞記事より

溶けた核燃料 全容は不明



「デブリ取り出しは不確実性との闘いだ」原子力損害賠償・廃炉等支援機構の山名理事長は、デブリ回収の難しさを指摘しながらも、予定通り2021年中に取り出しを始める方針を強調した。メルトダウンした1～3号機とも、原子炉格納容器を水で満たさない「気中工法」で、格納容器の横側から底部のデブリを取り出す計画だ。しかし炉内の情報は6年半経過しても不足している。

（毎日新聞2017.9.7）